

2021年6月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2020年11月10日

上場会社名 KeePer 技研株式会社 上場取引所 東・名  
 コード番号 6036 URL <http://www.keepercoating.jp/corp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 賀来 聡介  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 事業サポート部長 (氏名) 小野 繁範 (TEL) 0562-45-5258  
 四半期報告書提出予定日 2020年11月11日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年6月期第1四半期の業績 (2020年7月1日~2020年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年6月期第1四半期	2,719	20.6	711	144.0	713	137.5	464	144.4
2020年6月期第1四半期	2,254	16.3	291	36.9	300	38.9	190	45.6

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年6月期第1四半期	16.44	—
2020年6月期第1四半期	6.74	6.73

(注) 1 当社は2020年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。そのため前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

2 2021年6月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年6月期第1四半期	8,932	6,085	68.1
2020年6月期	8,554	5,832	68.2

(参考) 自己資本 2021年6月期第1四半期 6,085百万円 2020年6月期 5,832百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年6月期	—	0.00	—	15.00	15.00
2021年6月期	—	—	—	—	—
2021年6月期(予想)	—	0.00	—	13.00	13.00

(注) 1 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

2 当社は2020年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。そのため2020年6月期の年間配当につきましては、当該株式分割を考慮すると1株当たり配当金は7円50銭となります。

3. 2021年6月期の業績予想 (2020年7月1日~2021年6月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	5,933	22.8	1,467	72.9	1,467	71.3	963	64.4	34.07
通期	11,100	27.6	2,076	51.9	2,075	51.1	1,365	49.5	48.27

(注) 1 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

2 当社は2020年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。そのため当事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、2021年6月期の業績予想における1株当たり当期純利益を算定しております。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2021年6月期1Q	28,280,840株	2020年6月期	28,280,840株
② 期末自己株式数	2021年6月期1Q	366株	2020年6月期	282株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2021年6月期1Q	28,280,530株	2020年6月期1Q	28,240,063株

(注) 当社は2020年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。そのため前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、期末発行済株式数及び期中平均株式数を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日において、当社が入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき策定したものであり、実際の業績等は様々な要因により予測数値より大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、決算短信(添付資料)P5「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期貸借対照表	6
(2) 四半期損益計算書	8
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10
(重要な後発事象)	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間(2020年7月1日から2020年9月30日)における我が国の経済は、新型コロナウイルス感染症拡大の懸念が続く中、各種政策により経済活動の再開は進められているものの、引続き先行き不透明な状況が続いております。

このような環境の中、当社では、ユーザーに提供されるKeePerコーティングの品質の維持・向上を従来以上に実現していくことが、当面の業績を向上させるだけでなく、将来に向けての発展を目指したKeePerブランドのブランディングを確実にしていくために最も重要であると考えています。

まず、7月は、売上高は8億59百万円(前年同期比20.3%増)とキーパープロショップ、キーパーラボともに、「愛車を清潔に、キレイに、長く乗ろう」の需要が高まりをみせ大幅に増収をいたしました。

続く、8月は、売上高10億62百万円(同37.5%増)と突き抜けました。レジャーシーズンである8月は、3密を避けるためマイカーに乗る機会が増加し、キレイに乗りたいたいという需要が高まりを見せました。また、県をまたぐ移動を自粛されていた事から、お盆時の帰省や旅行などを諦めて、地元で生活する事も多く、愛車のキレイに費用をかけるお客様も多くなりました。

そして、9月は、売上高7億97百万円(同3.9%増)と微増という結果となりましたが、これは前年9月が、キーパー製品等関連事業、キーパーラボ運営事業ともに、消費税増税前の駆け込み需要があり、前々年同月比で51.8%増という特異な月であり、その実績に対する増収であることから、キーパーコーティングの需要の高さが続いていると考えています。

この好調の主な要因は、KeePerのSNSでのお客様の評価が大幅に上がってきたことにあります。その為、高額商品の需要が高くなり、その中でも最上級メニューである、「EXキーパー」や「Wダイヤモンドキーパー」を選ばれる方が、キーパーラボのみならず、全国のキーパープロショップにも波及し、施工台数が増加しております。

そして、コロナ禍において、新車の購買を少しためらわれるような風潮が続いており、「愛車を清潔に、キレイにしたい」と今乗っている愛車をリフレッシュする為に、「ダイヤモンドキーパー」や「クリスタルキーパー」などを買われるお客様が非常に多くなっております。

これらの活動の結果、当第1四半期累計期間(2020年7月から2020年9月)におきましては、売上高は27億19百万円(前年同期比20.6%増加)、営業利益は7億11百万円(同144.0%増加)、経常利益は7億13百万円(同137.5%増加)、四半期純利益は4億64百万円(同144.4%増加)と大幅な増収増益となり、四半期としても過去最高益を大幅に更新しました。

#### ① (キーパー製品等関連事業)

当事業における最も大きなシェアを占めている石油販売業界は、新型コロナウイルス感染症の拡散により、マイカーに乗る機会が増えたものの、自粛ムードでお客様の外出が減り本業である燃料油販売数量の低下が続いており、来店が減少しておりますが、今乗っている「愛車を清潔に、キレイに、長く乗ろう」の需要が高まりをみせております。その為、6月から8月にかけて「愛車・一新」の企画を実施し、今のお客様のニーズにぴったりと合い、全国で沢山のキーパーコーティングの施工が行われました。

カーディーラーなどの新車マーケットである自動車業界においては、KeePer初の”新車用”コーティングとして発売した、「EXキーパー」を中心に導入を推し進めております。

また、新車販売が低調に推移している事から、アフターサービスの充実を図る流れが大きくなり、その中でもリピート率の高いKeePerが注目をされております。

そして、昨年の9月に資本業務提携をした、VTホールディングス株式会社の子会社であるカーディーラー、株式会社ホンダカーズ東海や長野日産株式会社、BMWの株式会社モーターレン三河などの全ディーラーに導入が進み、今期より実績として着実に表れ始めました。

これとは別に、カーメーカーへの営業活動も積極的に行っており、その結果として、10月22日にプレスリリースをした、「SUBARU WダイヤモンドKeePer」の導入も順次進んでおり、今後の自動車業界の実績の向上に大きく期待が出来ます。

車以外へのサービスも拡大し始めました。特にスマートフォン用のコーティングとして販売している『Mコーティング』の取扱い店舗が着々と増加しはじめ、施工台数が増加しております。

そして、バイク用のコーティングとして、オートバイ用品の専門店チェーン2りんかんや、オートバイ新車、中

古車販売チェーン店のバイク館SOXにて、KeePerコーティングが導入されました。

これらの活動の結果、当セグメントの当第1四半期累計期間における売上高は13億97百万円（前年同期比9.6%増加）セグメント利益は4億94百万円（同68.7%増加）となりました。ただし、内部取引による利益が81百万円含まれており、内部取引控除後の利益は4億13百万円（同74.3%増加）となります。

## ②（キーパーLABO運営事業）

キーパーラボ運営事業についても、「愛車を清潔に、キレイにしたい」と「愛車をリフレッシュしてもうしばらく乗ろう。」というマインドが高い状態が続き、驚異的な実績が続いております。

第1四半期累計期間のコーティングの施工台数は大幅に伸びており、最新のEXキーパーは、SNSでの評判を見ての施工が増えて、施工台数が998台、売上で約1億4,300万円と大幅な実績の上乗せとなりました。

ダイヤモンドキーパーシリーズが28.4%増と大きく伸びています。これは最高価格帯のEXキーパーがメニューに加わった事で、ダイヤモンドキーパー類が価格的にも”真ん中”の商品になり、元々一番人気であるダイヤモンドキーパーをお客様が選びやすくなったからのようです。

愛車をリフレッシュするのに最適なクリスタルキーパーは、1年に1回のリピートでの施工が多くなり20.9%増となり、メンテケア類も25.7%増と伸び、ピュア・ミネラルオフも38.5%増となり、全てのKeePerコーティングにおいて非常に大きな伸びを示しました。

さらに、ここにきて、YouTube施策や自動車雑誌記事の販促策が効果を発揮し、KeePerのSNSでの評価が上がっており、来店台数は大幅に上がっている訳ではないのですが、高単価な商品が売れ始め、平均単価が前期11,106円から今期13,604円と22.5%増と大きく押し上げ、キーパーラボの運営効率が劇的に向上しております。

現在も多くの、既存店の改装と新ブランディングデザインへの変更と新店の開発計画がされています。

そして、今年の夏の猛暑から学び、今後も猛暑が続く事を想定し、既存店舗の空調、断熱対策の実施を早急に進めております。

### 既存店の改装と新ブランディングデザインへの変更

大阪府 交野店 外装変更（7月実施済）  
 千葉県 ちば古市場店 ブース増設、新ブランディングへ変更（8月実施済）  
 愛知県 一宮店 全面改装（9月実施済）  
 愛知県 知立店 敷地借増し店舗拡大  
 愛知県 大須店 敷地借増し店舗拡大  
 埼玉県 浦和美園店 敷地借増し店舗拡大  
 東京都 世田谷店 店舗拡大  
 愛知県 大府店 ブース増設、新ブランディングへ変更  
 埼玉県 草加店 新ブランディングへ変更  
 神奈川県 上溝店 新ブランディングへ変更  
 三重県 鈴鹿店 新ブランディングへ変更

### 既存店舗の空調、断熱対策の実施

愛知県 小牧山店  
 愛知県 高針店  
 愛知県 刈谷店  
 愛知県 豊橋店  
 愛知県 東海店  
 神奈川県 246玉川店  
 東京都 葛飾店  
 三重県 四日市店  
 三重県 松阪店  
 大阪府 鶴見店

兵庫県 尼崎店  
 愛知県 岡崎店  
 愛知県 東郷店  
 三重県 鈴鹿店  
 岐阜県 大垣店  
 広島県 広島東雲店  
 千葉県 船橋店  
 東京都 板橋店  
 埼玉県 浦和美園店  
 埼玉県 草加店  
 千葉県 野田店  
 埼玉県 三郷中央店  
 千葉県 松戸東店

今後の加速的に進むことが予想される需要拡大に備えて、既存店舗設備の充実を進めており、益々の需要増加に応えるべく強い態勢を整えております。

新店の開発状況

2020年10月7日 鹿児島県鹿児島市 鹿児島県庁前店 オープン  
 2020年12月オープン予定 大阪府堺市 中百舌鳥店（仮称）  
 2021年2月オープン予定 千葉県佐倉市 佐倉店（仮称）  
 2021年3月オープン予定 兵庫県姫路市 姫路店（仮称）  
 2021年3月オープン予定 神奈川県厚木市 厚木店（仮称）  
 2021年3月オープン予定 岡山県岡山市 岡山店（仮称）  
 2021年5月オープン予定 神奈川県大和市 大和店（仮称）  
 2021年6月オープン予定 北海道札幌市 白石店（仮称）

このように新店開発は8店舗が確定し、当初の目標である10店舗まで、2店舗となりましたが、既に多くの物件候補地があるので、しっかり物件を見定めた上で、確定させていきます。

これらの活動の結果、当セグメントの当第1四半期累計期間における売上高は13億22百万円（前年同期比34.9%増加）、セグメント利益は2億98百万円（同446.3%増加）となりました。ただし、内部取引による費用が81百万円含まれております。

このように、内部取引分を足すと、利益は3億79百万円となり、売上高対営業利益率でいうと28.7%（前年同期11.3%）となり、大幅に運営の効率が向上しております。今後、このビジネスモデルは大きな可能性を秘めており、積極的に伸ばす活動をしていきます。しかし「数」を追い、「質」を落としてしまつては元も子もないので、しっかりと戦略を考えながら、実力を上げ、ビジネスを拡大してまいります。

(2) 財政状態に関する説明

資産・負債及び純資産の状況

(資産)

当第1四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べ3億78百万円増加し、89億32百万円となりました。これは主として、現金及び預金が2億50百万円増加、受取手形が21百万円増加、売掛金が82百万円増加、商品が36百万円増加、前払費用が90百万円減少、建設協力金が48百万円増加、繰延税金資産が33百万円増加したこと等によるものです。

(負債)

当第1四半期会計期間末における負債合計は、前事業年度末に比べ1億25百万円増加し、28億46百万円となりました。これは主として、買掛金が1億8百万円増加、未払法人税等が25百万円増加、未払費用が12百万円減少、賞与引当金が83百万円増加、長期借入金が82百万円減少したこと等によるものです。

(純資産)

当第1四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べ2億52百万円増加し、60億85百万円となりました。これは主として利益剰余金が四半期純利益により4億64百万円増加した一方で、配当により2億12百万円減少したこと等によるものです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年6月期の業績予想につきましては、本日(2020年11月10日)に公表いたしました「通期業績予想および配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年6月30日)	当第1四半期会計期間 (2020年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,893,947	2,144,205
受取手形	117,371	138,929
売掛金	667,632	750,153
商品	561,807	598,268
貯蔵品	31,725	32,405
前払費用	231,738	141,421
その他	10,755	1,362
貸倒引当金	△237	△266
流動資産合計	3,514,740	3,806,480
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	2,244,730	2,233,074
構築物（純額）	172,910	170,614
機械及び装置（純額）	88,638	90,008
車両運搬具（純額）	32,244	29,406
工具、器具及び備品（純額）	129,040	124,833
土地	1,487,286	1,494,227
建設仮勘定	48	10,581
有形固定資産合計	4,154,898	4,152,746
無形固定資産		
ソフトウェア	36,868	39,883
その他	23,036	23,767
無形固定資産合計	59,905	63,651
投資その他の資産		
投資有価証券	18,198	18,270
長期前払費用	26,657	28,973
敷金及び保証金	323,051	323,861
建設協力金	246,666	295,187
保険積立金	12,276	12,276
繰延税金資産	197,662	230,805
その他	286	286
貸倒引当金	△276	△276
投資その他の資産合計	824,523	909,385
固定資産合計	5,039,326	5,125,783
資産合計	8,554,066	8,932,263

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年6月30日)	当第1四半期会計期間 (2020年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	286,862	394,986
1年内返済予定の長期借入金	331,332	331,332
未払金	295,053	301,633
未払法人税等	255,810	280,905
未払費用	153,066	140,986
賞与引当金	27,733	110,935
その他	86,264	68,271
流動負債合計	1,436,122	1,629,050
固定負債		
長期借入金	663,268	580,435
退職給付引当金	263,678	275,586
役員退職慰労引当金	242,780	246,039
資産除去債務	111,180	111,350
その他	4,043	4,043
固定負債合計	1,284,951	1,217,454
負債合計	2,721,073	2,846,505
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,347,557	1,347,557
資本剰余金	1,007,224	1,007,224
利益剰余金	3,476,618	3,729,483
自己株式	△142	△229
株主資本合計	5,831,257	6,084,035
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,735	1,722
評価・換算差額等合計	1,735	1,722
純資産合計	5,832,993	6,085,758
負債純資産合計	8,554,066	8,932,263

## (2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自2019年7月1日 至2019年9月30日)	当第1四半期累計期間 (自2020年7月1日 至2020年9月30日)
売上高	2,254,847	2,719,663
売上原価	596,140	569,136
売上総利益	1,658,706	2,150,527
販売費及び一般管理費	1,367,115	1,439,088
営業利益	291,590	711,439
営業外収益		
受取利息	299	322
為替差益	7,017	824
受取手数料	2,191	1,852
その他	670	296
営業外収益合計	10,178	3,296
営業外費用		
支払利息	1,543	1,311
その他	—	262
営業外費用合計	1,543	1,574
経常利益	300,225	713,161
特別利益		
固定資産売却益	492	183
特別利益合計	492	183
特別損失		
固定資産除売却損	516	993
減損損失	—	20,945
特別損失合計	516	21,938
税引前四半期純利益	300,201	691,406
法人税、住民税及び事業税	117,816	259,574
法人税等調整額	△7,850	△33,137
法人税等合計	109,966	226,437
四半期純利益	190,235	464,969

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

前第1四半期累計期間(自 2019年7月1日 至 2020年9月30日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計
	キーパー製品等関連事業	キーパーLABO運営事業	
売上高			
外部顧客への売上高	1,274,491	980,355	2,254,847
セグメント間の内部売上高又は振替高	88,924	—	88,924
計	1,363,415	980,355	2,343,771
セグメント利益	293,085	54,595	347,680

## 2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の内容

(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	347,680
セグメント間取引消去	△56,090
四半期損益計算書の営業利益	291,590

(注) セグメント間の内部売上高88,924千円は、キーパー製品等関連事業から、キーパーLABO運営事業に対するものです。キーパー製品等関連事業のセグメント利益293,085千円には、セグメント間の内部売上高による利益56,090千円を含んでおります。

当第1四半期累計期間(自 2020年7月1日 至 2021年9月30日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計
	キーパー製品等関連事業	キーパーLABO運営事業	
売上高			
外部顧客への売上高	1,397,479	1,322,184	2,719,663
セグメント間の内部売上高又は振替高	128,768	—	128,768
計	1,526,248	1,322,184	2,848,432
セグメント利益	494,302	298,266	792,568

## 2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の内容

(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	792,568
セグメント間取引消去	△81,128
四半期損益計算書の営業利益	711,439

(注) セグメント間の内部売上高128,768千円は、キーパー製品等関連事業から、キーパーLABO運営事業に対するものです。キーパー製品等関連事業のセグメント利益494,302千円には、セグメント間の内部売上高による利益81,128千円を含んでおります。

## (重要な後発事象)

## (株式分割)

当社は、2020年9月2日開催の取締役会において、株式の分割について、下記のとおり決議いたしました。

## 1. 株式分割の目的

当社株式の投資単位当たりの金額を引き下げ、株式数の増加により株式の流動性を高めることで、投資家の皆様により投資しやすい環境を整えるとともに、投資家層の更なる拡大を図ることを目的としております。

## 2. 株式分割の概要

(1) 2020年9月30日を基準日とし、同日最終の株主名簿に記載または記録された株主の所有する普通株式1株につき2株の割合をもって分割しております。

## (2) 分割により増加する株式数

① 株式分割前の発行済株式総数	14,140,420株
② 今回の分割により増加する株式数	14,140,420株
③ 株式分割後の発行済株式総数	28,280,840株
④ 株式分割後の発行可能株式総数	80,000,000株

## (3) 日程

① 基準日公告日	2020年9月15日
② 基準日	2020年9月30日
③ 効力発生日	2020年10月1日

3. 前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定した場合における1株当たり情報の各数値はそれぞれ次のとおりであります。

項目	前第1四半期累計期間 (自 2019年7月1日 至 2019年9月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年9月30日)
1株当たり当期純利益金額	6.74円	16.44円
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	6.73円	—円